

今年も群生地を手入れ

ミズバシヨウを保全 網走湖・水と緑の会



今年も水と緑の会や地域の企業などが、ミズバシヨウ群生地を手入れした

市呼人にあるミズバシヨウ群生地の保全に毎年、この時期に行っているもので、参加者取り組んでいる網走湖・水と緑の会(清水晶子会長)が22日、同群生地内の環境が変わらうと、今年もNGKオホーツク(市呼人)の社員が参加した。集まった会員らは市のボランティア(み袋)を踏まないよう足元に注意しながら群生地内のごみを拾い集めた。また、湿地に育つミズバシヨウにとって、群生地内の水の流は重要。参加者は水の流を妨げる木の枝を取り除き、群生地のわきを流れる小川の土留めに使うなどしていた。社員が作業を手伝った

たNGKオホーツクは今年、16人が参加した。島輝人総務部長は「この群生地は観光客も多く訪れる場所。地域の企業として、環境保全に少しでも役立てれば」と話していた。同群生地は、数年前に群生地の周囲で側溝に手が加えられたため、群生地内に水が流れ込まなくなったことがあり、現在も一部は湿地が保たれず乾燥化が進んでいる。清水会長は「ミズバシヨウが育つ湿地として保全できるよう、手だてを考えた」としている。また、群生地内には昨年の台風などで倒れた樹木があるが、保全のために取り除くか、自然のままに残しておくかで、会員の意見が分かれているという。(伊藤)

網走湖水と緑の会 2017年6月 呼人水芭蕉通信 13号

網走市呼人187-1 森の家内 TEL 0152-48-2223

会員13名分集
年会費1,000円



独特の白い仏炎苞を開かせたミズバシヨウ

ミズバシヨウが見ごろ

市呼人 国道沿いの群生地

市呼人のミズバシヨウ群生地が見ごろを迎えた。大型連休中は一面の群生を楽しむことができそう。国道39号沿いに広がる群生地には、雪解け水がたまる湿地から鮮やかな緑のミズバシヨウが顔を出し、葉が変形した独特の白い仏炎苞(ぶつえんぼう)があららこちらで開いている。湖水の水質悪化や湿地の乾燥など、環境の変化から減少が懸念されている。(伊藤)

民間気象会社が発表する網走の桜の開花予想は、平年と同じ5月11日前後。一面の白から緑、そして色とりどりの花と、季節の変わり目はまを染める色の変り目。今年も、まもなく「花のまち」に切り替わりそう。

網走市呼人で見ごろを迎えているミズバシヨウ。網走湖周辺では、呼人半島から女満別湖畔にかけて群生地が点在している。網走市によると、合計52群あり、国内最大級の群生地という。一部の群生地の保全活動を行う市民団体「網走湖・水と緑の会」の清水晶子代表は「大型連休いっぱいには皆さん楽しんでもらえよう」と話す。網走市観光課によると、木道からミズバシヨウを楽しめる呼人探鳥遊歩道は、倒木の撤去や整備に時間がかかり、連休前の開通は間に合わないとしている。(斎藤直史)

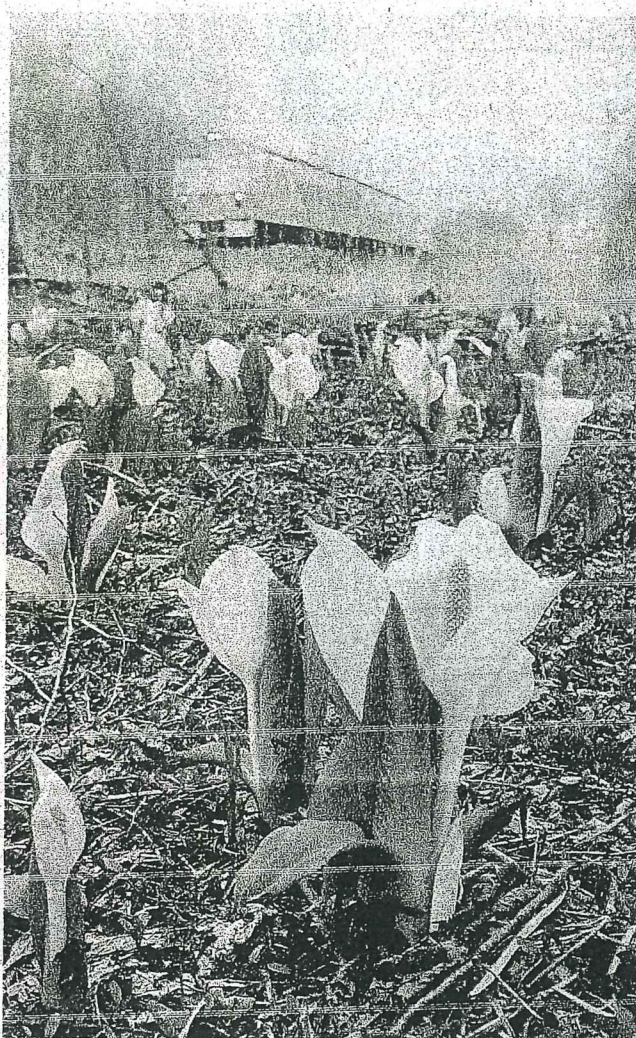
保全地の
風倒木
皆様のお考えをお寄せ下さい
TEL FAX 0152-48-2223

純白でかれん ミズバシヨウ

北海道新聞

■大型連休前 網走湖畔で見ごろ

【網走】網走市呼人の網走湖畔では大型連休を前にミズバシヨウが見ごろを迎え、訪れた観光客や市民の目を惹いた



ませている。ミズバシヨウはサトイモ科の多年草。葉の間から、純白の花びらのような「仏炎苞」

と呼ばれる葉の一種を広げている。今年も雪解けが早く、10日ほど前から国道39号やJR石北線沿線の湿地に咲き誇

網走市呼人で見ごろを迎えているミズバシヨウ。網走湖周辺では、呼人半島から女満別湖畔にかけて群生地が点在している。網走市によると、合計52群あり、国内最大級の群生地という。一部の群生地の保全活動を行う市民団体「網走湖・水と緑の会」の清水晶子代表は「大型連休いっぱいには皆さん楽しんでもらえよう」と話す。網走市観光課によると、木道からミズバシヨウを楽しめる呼人探鳥遊歩道は、倒木の撤去や整備に時間がかかり、連休前の開通は間に合わないとしている。(斎藤直史)

人と生きものにやさしい里山を

網走湖・水と緑の会 会長清水晶子

昨年の台風で倒れた水芭蕉保全地の風倒木について頭を痛めています。「撤去すべき」と「そのまま放置すべき」という考えが会の中で分かれているからです。「景観か」「自然保護(生態系重視)か」、皆さんはどう思いますか?

このままでは会の活動の見通しがはっきりしません。双方の調和点はないものではないでしょうか。

私は保全地を「里山」と理解しています。里山は人の生活に近い森という意味です。里山に対して「深山」があります。暮らしてから離れたところの自然です。私にとって呼人半島の探鳥道は深山です。

呼人半島では景観として受け入れられる風倒木が、なぜ保全地では違和感があるのでしょうか。それは草刈をしたり、枯れ枝を拾ったりして、きれいに管理されて国道沿い(網走の入り口)にあるからではないかと思えます。根がむき出しになり斜めに倒れた風倒木は違和感があるのです。保全活動を始めて、よい沿道景観、観光スポットができたのではと思っています。これは生態系には関係ないかもしれませんが。

私は水芭蕉を湿地の象徴としてとらえています。「湿地」の意義は水の浄化や生物の多様性にあると思えます。出来るだけ健全な形で持続的に保全したい。また個人的には当保全地を呼人の原風景だと思っています。呼人開拓百年事業ではここにヨシで拝み小屋を作りました。

いまは出来るだけ乾燥化を避け、陸地植物の進入、繁茂を防ぎ、広い空地ができたヤチダモやヤチハンノキを植えた。十年まえに植えたヤチダモはもうだいぶ育っています。

保全、管理には愛情が基本だと思えます。風倒木問題は「健全な里山」の景観と生態系のよい関係の合意づくりのきっかけになったと思います。

撤去するとすれば、林床にダメージを与えぬ冬期、安全で、安価に、また会員の労力を強い方法があると思えます。網走には倒木処理の専門家、薪ストーブ使用者、陶芸の穴釜作家、ログアトや木工作家がいます。また風倒木を水路の護岸や記念碑前の椅子やテーブルに使うこともできますね。

最後になりましたがこれまで春と秋の整備に参加いただいているNGKオホーツクの皆様、感謝しています。

2017年6月記